

立正大学博物館 第6回特別展

# 題目板碑の世界



立正大学博物館

# ごあいさつ

立正大学博物館の第6回特別展のテーマとして、「題目板碑」を取り上げました。板碑は、中世に盛行した石製供養塔の一種です。熊谷キャンパスの所在する熊谷市には最古の紀年銘（嘉禄3(1227)年）のある板碑が所在し、数多くの板碑が残っています。

埼玉県を中心とする武蔵地域には“武蔵型板碑”が多く分布します。板碑の多くは、その中心に主尊として阿弥陀を表すキリーク(卍)と呼ばれる梵字種子を刻みます。その中でも、梵字種子を刻まず「南無妙法蓮華経」を刻んだ日蓮宗独特の“題目板碑”と呼ばれる板碑があります。

今回の特別展では、この題目板碑に注目し、立正大学の所蔵する題目板碑を展覧するとともに、題目板碑の発生と広がりについて見ていきたいと思えます。

平成21年11月

館長 池上 悟

## 目次

ごあいさつ

目次

例言

1. 板碑について
2. 題目板碑の世界
3. 立正大学所蔵の題目板碑
4. 妙昌寺の題目板碑

## 例言

1. 本図録は、平成21年11月1日(日)～30日(月)に開催する第6回特別展展示図録として作成したものです。
2. 本図録は、池上悟館長の指示のもとに博物館学芸員内田勇樹が編集しました。
3. 企画展開催にあたり、以下の方にご協力を頂きました。  
池上・大坊本行寺・妙昌寺・妙顕寺・本間岳人・村山卓(順不同敬称略)
4. 本図録及び展示は、以下の文献を参考にしました。

- ・服部清五郎著『板碑概説』(鳳鳴書院 昭和8年)
- ・『千葉県史料 金石文篇』1・2・3(千葉県 昭和50・53・55年)
- ・『東京都板碑所在目録』(23区分・多摩分)(東京都教育委員会 昭和54・55年)
- ・『板碑—埼玉県板石塔婆調査報告書—』I・II・III(埼玉県教育委員会 昭和56年)
- ・坂詰秀一編『板碑の総合研究 2 地域編』(柏書房 昭和58年)
- ・中尾堯著『日蓮信仰の系譜と儀礼』(吉川弘文館 平成11年)
- ・『東秩父村の歴史』(東秩父村 平成17年)
- ・『板碑が語る中世～造立とその背景～』(埼玉県立嵐山史跡の博物館 平成20年)
- ・『霊寶殿 池上本門寺の御霊宝と文化遺産』(池上本門寺霊寶殿 平成21年)

## 1. 板碑について

板碑とは、中世に供養塔として造立された石塔婆の一つです。

墓標（お墓）との違いは、仏や菩薩の主尊を配置し、造塔供養を行うことによって得られる功德（ご利益）をもって菩提を弔うことを目的とした塔婆の一種です。故人の霊を慰めるために板碑を造立したとしても、故人の法名（戒名）を主要な位置に刻むことはありません。

板碑の起源については、様々な説が考えられていますが、近年石川県珠洲市の本江寺遺跡から出土した木製の板碑が起源に係わるものとされています。

紀年銘が残るもので最も古い板碑は、埼玉県熊谷市に所在する嘉禄3（1227）年の板碑です。阿弥陀三尊の像容が表されています。熊谷周辺には、この他にも数多くの板碑が分布しています。

板碑の造立者は、ごく一部の限られた人達であり、庶民は石製の板碑を立てることは出来ませんでした。

板碑は、東国を中心として畿内、北部九州、阿波に主に分布しています。分布地域の石材により、関東地方では緑泥片岩を使用した武蔵型板碑、黒雲母片岩を

使用した常総型板碑などに分類されます。

埼玉県では、秩父郡長瀨町と比企郡小川町に板碑石材地が確認されています（写真1・2）。

埼玉県内では、約27,000基もの板碑が確認されており、1300年代～1400年代にかけて板碑が盛行します。初発期板碑と呼ばれる初期の板碑は、河床から採れる緑泥片岩などを利用して造られますが、板碑の増加により石材地から板碑の原型を直接切り出し、造られていたことがわかります。

武蔵型板碑は、板碑の代表例として挙げられるものであり、頭部を山形に加工し、その下に二条線、天蓋、主尊、蓮座、花瓶（三具足）、紀年銘、偈頌（経典などの詩文）などの銘文を刻むものです。多くは梵字で主尊を表しますが、像容や名号（南無阿弥陀仏）、題目（南無妙法蓮華経）で表現する板碑もあります。

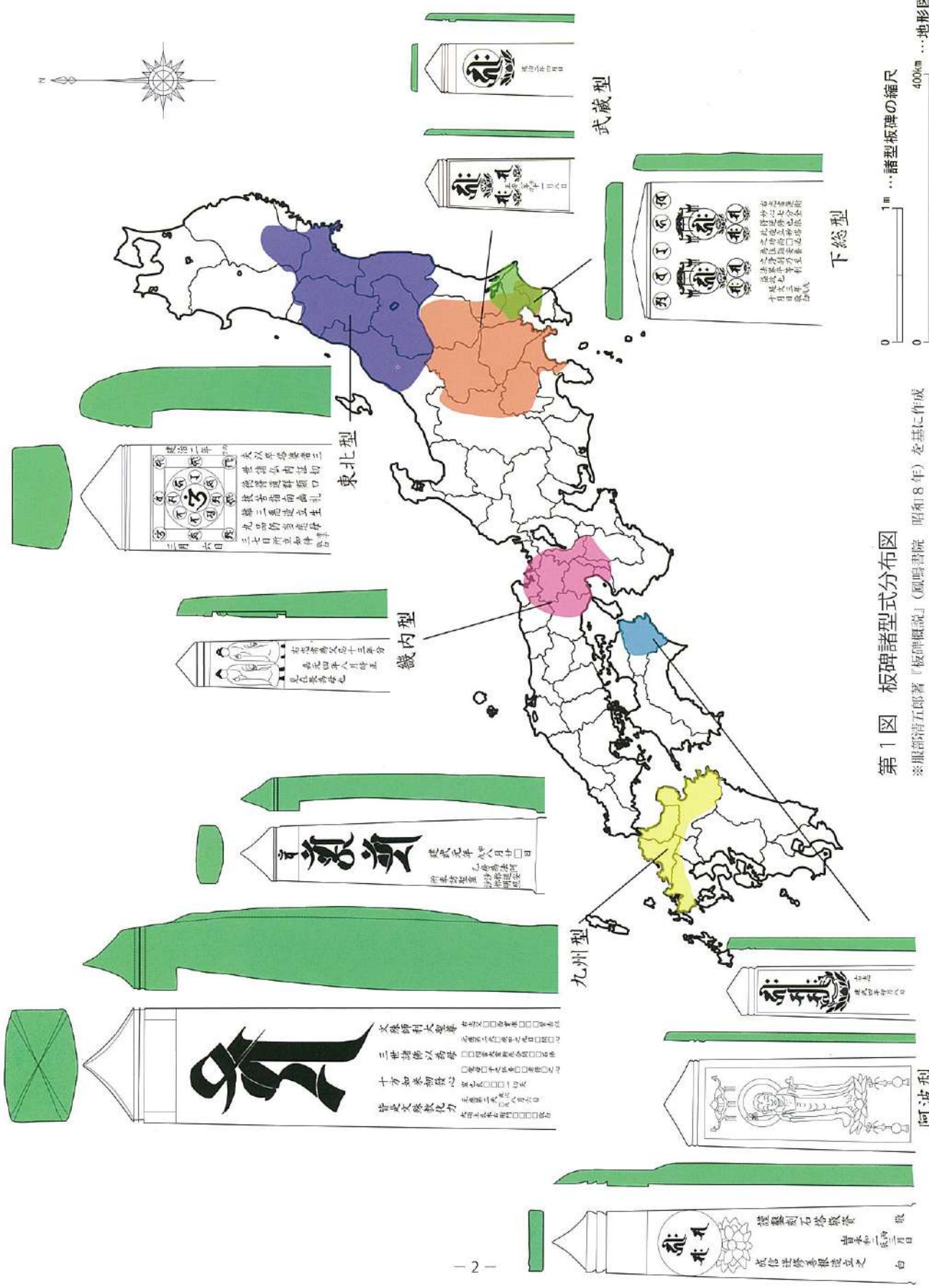
展示では、武蔵型板碑の代表的な板碑（写真3・4）や月輪、花瓶（写真5）、枠線、割付線（写真6）などが見られる、板碑に刻まれる主要な表現について展示しました。



写真1 板碑石材原産地  
(埼玉県秩父郡長瀨町)



写真2 板碑石材原産地  
(埼玉県比企郡小川町)



第1図 板碑諸型式分布図

※服部清五郎著『板碑概説』（鳳鳴書院 昭和8年）を基に作成

0 1m ... 諸型式板碑の縮尺

0 400m ... 地形図縮尺



第2図 板碑模式図

〔板碑—埼玉県板石塔婆調査報告書—I 本文・図版編〕(埼玉県教育委員会 昭和56年)を基に作成



写真3 阿弥陀三尊板碑(立正大学博物館所蔵)  
嘉元元(1303)年  
大きさ;高121.5cm・幅32.2cm・厚2.8cm

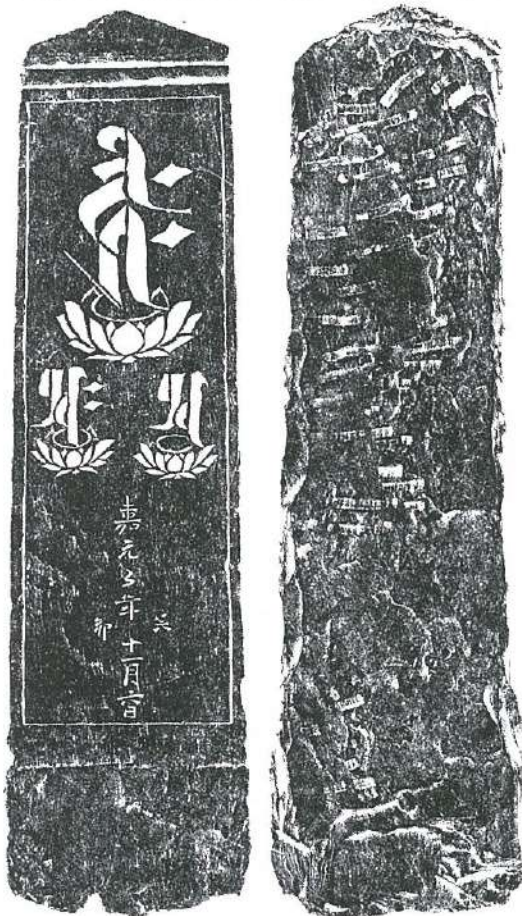




写真4 阿弥陀三尊板碑

(立正大学博物館所蔵)

嘉慶2(1388)年

大きさ;高93.8cm・幅29.9cm・厚2.2cm

三尊形式で主尊の阿弥陀にのみ蓮座を備える。また表面の基部のところに鑿による加工が残っている。



写真5 阿弥陀三尊板碑

(立正大学博物館所蔵)

寛正7(1466)年

大きさ;高(65.5)cm・幅25.6cm・厚3.5cm

基部を枳状に加工し、紀年銘の脇に偈頌を刻み、主尊・脇侍ともに月輪で囲まれている板碑である。



写真6 阿弥陀一尊板碑

(立正大学博物館所蔵)

永享11(1439)年

大きさ;高66.2cm・幅22.1cm・厚2.4cm

碑面に、主尊や紀年銘、花瓶などを刻む為の割付線が残る板碑である。

## 2. 題目板碑の世界

題目板碑とは、日蓮宗の主題である「南無妙法蓮華經」の七字題目を刻むものです。その形態は、一遍主題（「南無妙法蓮華經」のみ刻むもの）、主題兩尊（題目の兩脇に二尊（「多宝如来」「釈迦牟尼仏」）が配されるもの）、曼荼羅形式の三種に大別されます。

日蓮宗は、建長5（1253）年に日蓮によって立教開宗された、法華經を依教とする宗派です。紀年銘の残る題目板碑で最古のものは、東京都大田区に所在する池上本門寺大坊本行寺に遺る、正応3（1290）年銘のもので、日蓮聖人が弘安5（1282）年に池上の地で御入滅された8年後に造立されたものです。ついで埼玉県北葛飾郡松伏町に所在する蓮福寺の正応5（1292）年銘のものがあります。また、一番新しい題目板碑としては、埼玉県戸田市に所在する妙顕寺所蔵の慶長3（1598）年銘のものがあります。

題目板碑の分布は、中世において日蓮宗が教線を伸ばした千葉県を中心に、東京都、埼玉県、宮城県、宮崎県に分布しています。

千葉県は、日蓮聖人誕生の地でもあり、中山法華經寺など日蓮宗の多くの寺院が所在し、日蓮宗が広まっていることから多くの題目板碑が所在します。

題目板碑が多く分布する千葉県・埼玉県・東京都において時期別に広がりを見ていくと、最も多く広がる正平6/観応2～応永7（1351～1400）年の時期は、板碑の盛行の時期と重なり、この時期に多くの板碑が造られ、題目板碑も同じように多く造られたことが分かります。

地域的な広がりを見ていくと、千葉県内では、中山法華經寺を中心とする中世八幡庄域（現市川地域）と、飯高檀林や日本寺などが所在する中世千田庄域（現匝瑳地域）を主として展開していきます。下総に多く見られる題目板碑は、中山法華經寺を中心とする中

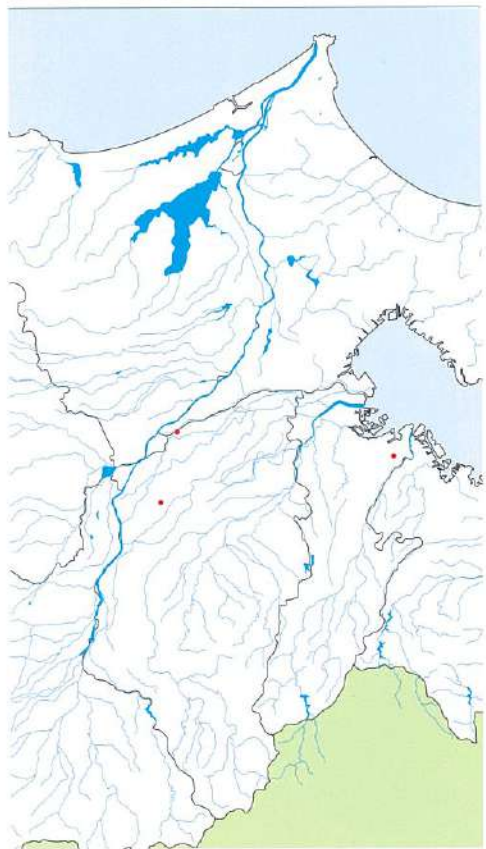


写真7 最古の題目板碑  
正応3（1290）年銘/（写真：池上本門寺大坊本行寺提供）

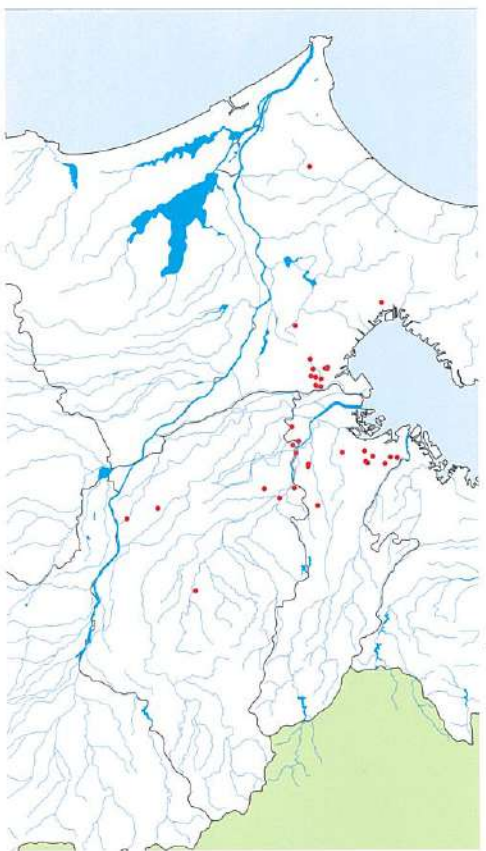
山門流によるものです。中山法華經寺は、有力御家人である千葉氏の氏寺として厚い外護のもとに発展します。この千葉氏との関連から赤塚郷を中心とする白子川流域の千葉氏の所領にも日蓮宗が拡まり、この地域にも多くの題目板碑が分布します。

東京都は、池上本門寺を中心とする地域と埼玉県と東京都の境を流れる荒川の支流の白子川流域に多く分布します。埼玉県は、白子川流域以外には、東松山市、東秩父村、騎西町、菖蒲町に集中しています。1351～1400年の板碑造立が増加する時期に埼玉県全体に多く分布するようになりますが、それ以外の時期は、前述の地域に集中して造立されていることが分かります。

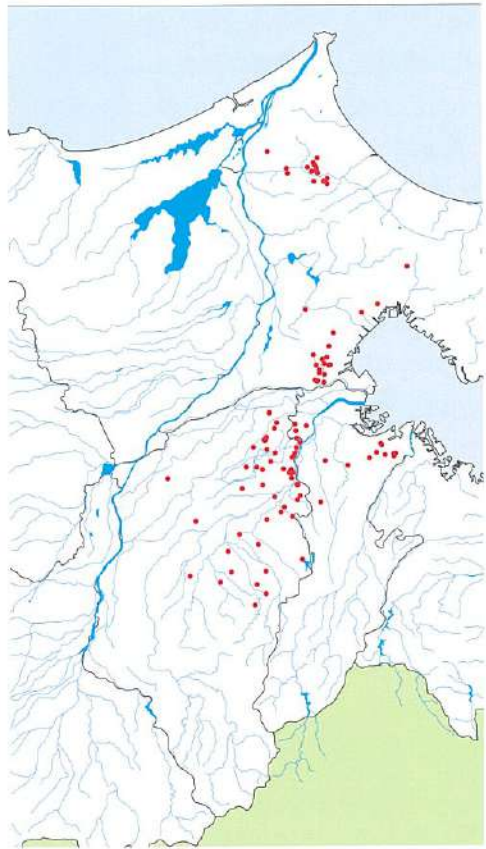
このように、題目板碑は関東域において見てみると、阿弥陀を主尊とする板碑のように全域に分布するものではなく、日蓮宗の信仰と深く関わりながら広がっていることがわかります。



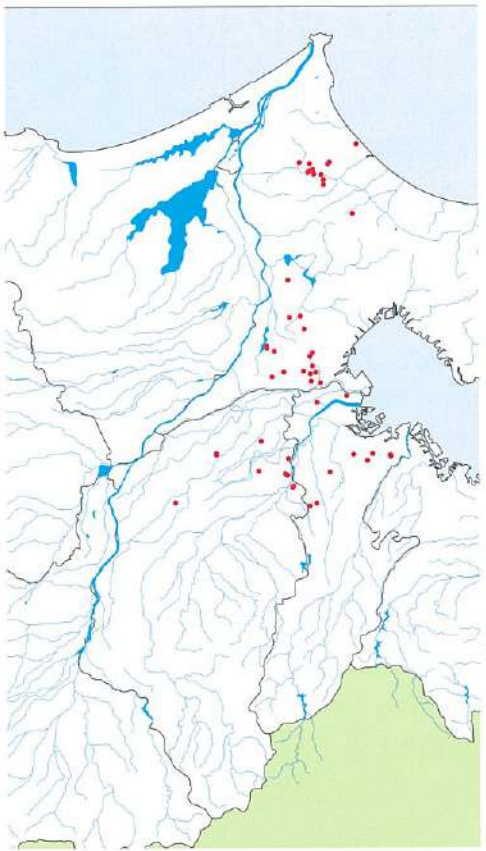
① 1251 ~ 1300 年  
(建長 2 ~ 正安 2 年)



② 1301 ~ 1350 年  
(正安 3 ~ 正平 5 / 觀應元年)

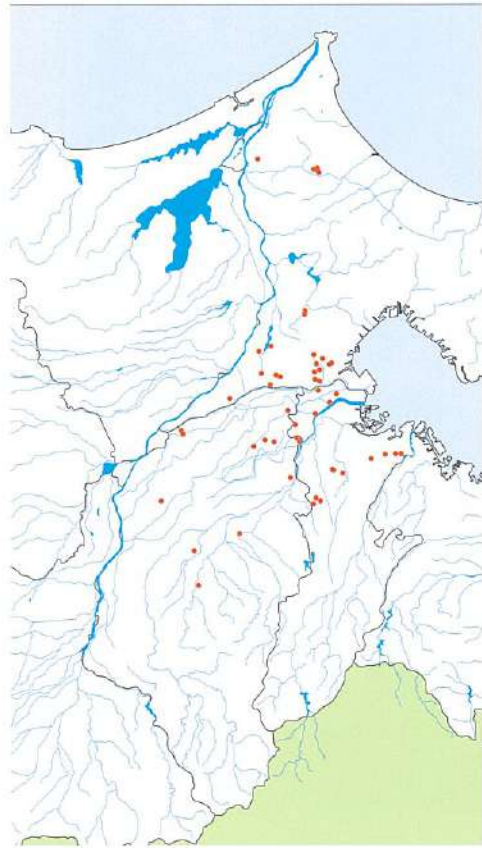


③ 1351 ~ 1400 年  
(正平 6 / 觀應 2 ~ 應永 7 年)

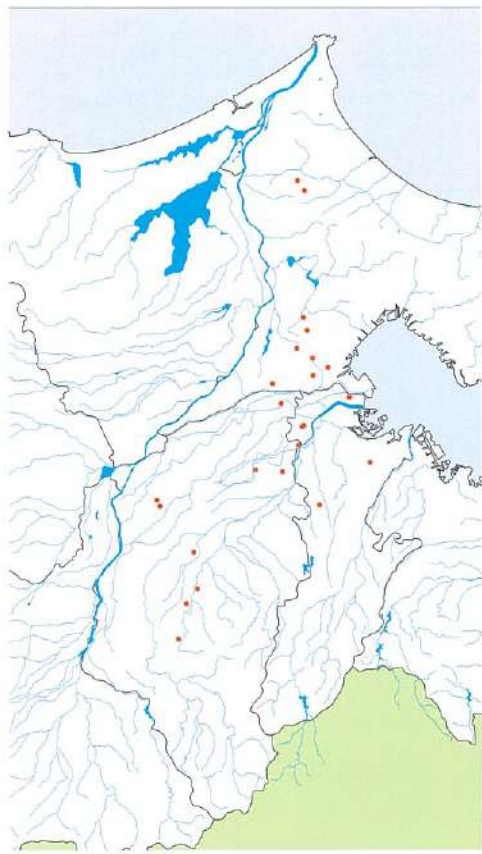


④ 1401 ~ 1450 年  
(應永 8 ~ 宝徳 2 年)

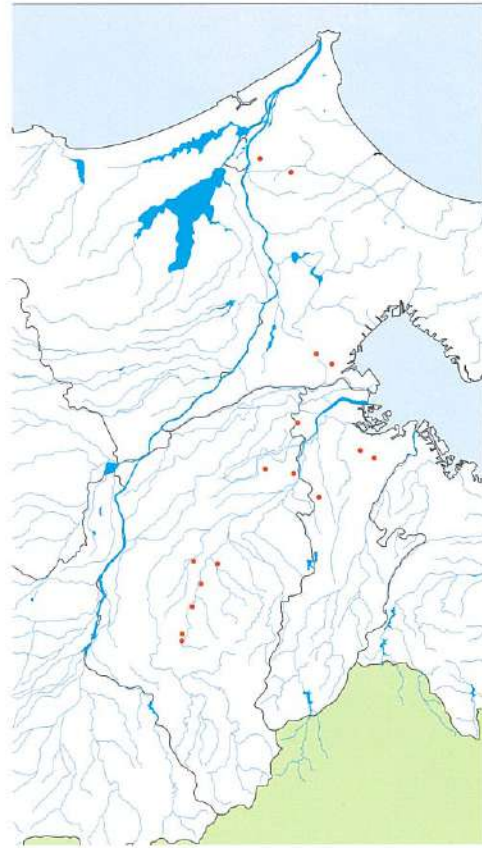




⑤ 1451～1500年  
(宝徳3～明応9年)



⑥ 1501～1550年  
(文亀元～天文19年)



⑦ 1551～1600年  
(天文20～慶長5年)

第3図 題目板碑の時期別分布図

※『千葉県史料 金石文篇』1・2・3(千葉県 昭和50年)・『東京都版碑所在日録』(23区分・多摩分)(東京都教育委員会 昭和54・55年)・『板碑一埼玉県板石塔婆調査報告書一』(埼玉県教育委員会 昭和56年)を基に作成

### 3. 立正大学所蔵の題目板碑

立正大学は、天正8（1580）年に創立の僧侶養成機関である飯高檀林を起源とすることもあり、板碑のうちでも特に日蓮宗独特の題目板碑を、歴史考古学の主要な研究課題としてきました。

昭和39年の久保常晴著「下総型題目板碑考」『立正史学』第28号（立正史学会 昭和39年、後に『佛教考古学研究』（ニュー・サイエンス社 昭和52年）に所収）、「題目板碑の研究」『立正大学人文学研究所年報』第3号（昭和39年、後に『続佛教考古学研究』ニュー・サイエンス社 昭和52年に所収）や坂詰秀一編『板碑の総合研究』（柏書房 昭和58年）、阪田正一著『題目板碑とその周辺』（雄山閣 平成20年）をはじめ、各地の立正大学同窓は題目板碑の研究に取り組んでいます。

立正大学所蔵の題目板碑の総数は28基あり（池上悟「本学所蔵考古資料の整理研究」『立正大学文学部論叢』第82号（立正大学文学部 昭和60年））、このうち紀年銘の明確なものは、14基あります。すべて関東各地に旧在したものです。今回の展示ではこのうち11基を展示し紹介します。



1、主題阿尊式（立正大学博物館所蔵）  
 徳治三（一三〇八）年  
 大きさ（高九五・四cm・幅二九・〇cm・厚二・七cm）

今此三界  
 南无多寶如来 皆是我有  
 南無妙法蓮華經 徳治三年三月十七日  
 南无釋迦牟尼佛 其中衆生  
 悉此吾子

0 20cm

2、主題兩尊式（立正太子博物館所藏）

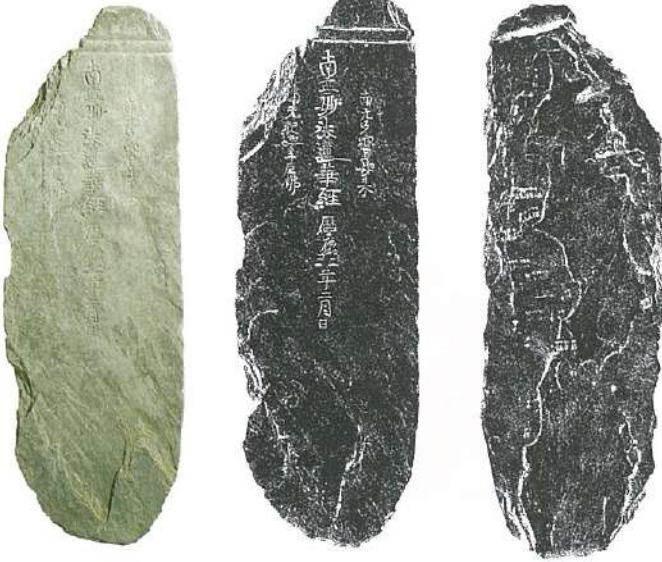
曆応四（一三四一）年

大小（高七三・八cm・幅二四・四cm・厚二・〇cm）

南无多寶如來

南無妙法蓮華經 曆応二年二月日

南无釋迦牟尼佛



3、主題兩尊式（立正太子博物館所藏）

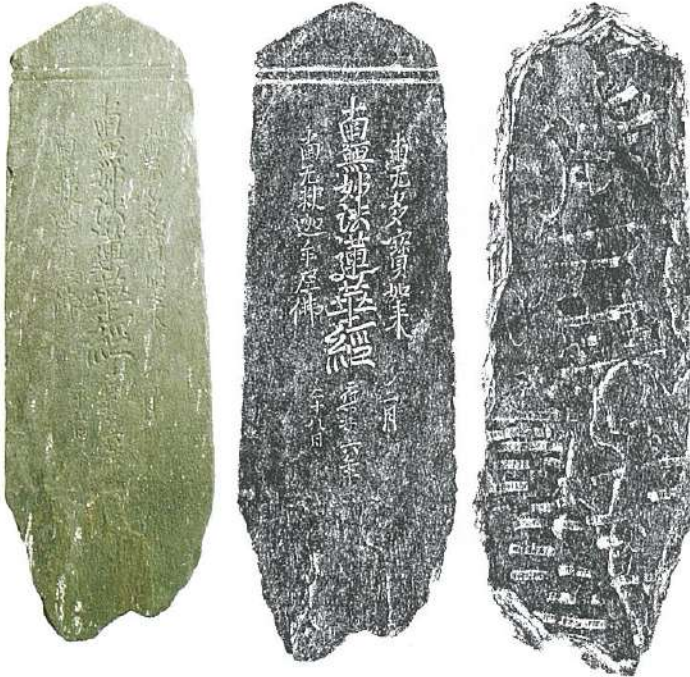
享安六（一二七三）年

大小（高八八・八cm・幅二八・八cm・厚二・五cm）

南无多寶如來

南無妙法蓮華經 享安六年 二月

南无釋迦牟尼佛



4、主題兩尊式（立正太子博物館所藏）

康応元（一四八九）年

大小（高五七・六cm・幅二四・〇cm・厚二・九cm）

南无多寶如來

南無妙法蓮華經

妙淨聖□位

南无釋迦牟尼佛 康応元年二月廿八日 己巳



0 20cm



0 20cm

0 10cm

0 20cm

5、主題両尊式 (立正大学博物館所蔵)

明德四 (二二九) 年

大きさ (高七一・七cm・幅二二・八cm・厚二・七cm)

南无多宝如来 明德四年

南無妙法蓮華經 妙空

南无释迦牟尼佛 十一月廿八日

6、主題両尊式 (立正大学博物館所蔵)

応永二二 (二四一六) 年

大きさ (高一一・五cm・幅一六・〇cm・厚一・九cm)

「无多宝如来 忘永」

「法蓮華經」

「牟尼佛 丙申九月」

7、主題両尊式 (立正大学博物館所蔵)

永享八 (二四三二) 年

大きさ (高四一・六cm・幅一五・七cm・厚一・六cm)

永享八年□

南無妙法蓮華經

正月九日妙法尼

8、曼荼羅式 (立正大学博物館所蔵)

文龜四 (二五〇四) 年

大きさ (高四九・七cm・幅一六・五cm・厚一・八cm)

大日天王

右志者慈母妙口比丘尼

三十三回忌之日也

南无多宝如来 鬼子母神

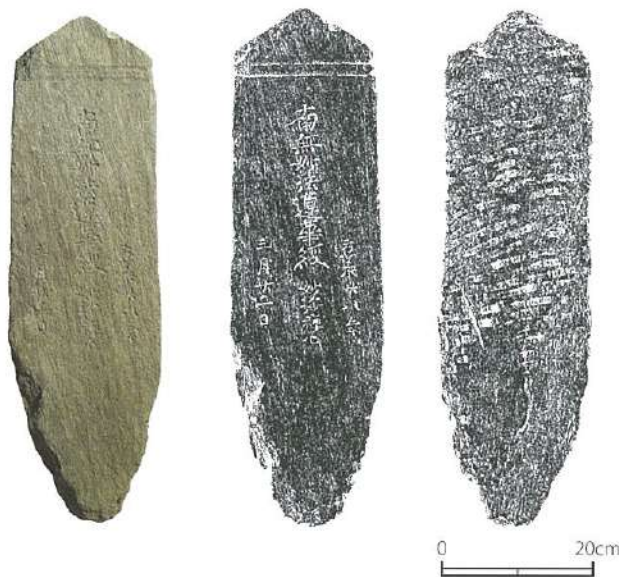
南無妙法蓮華經 南無法主大正人

南無释迦牟尼佛 十羅刹女

大日天王

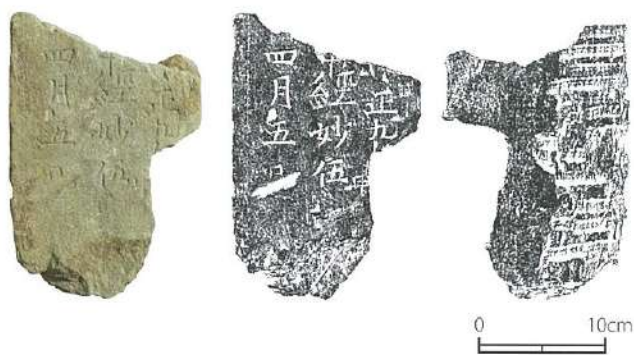
文龜二年 甲 三月廿七日 敬

白



9、主題両尊式（立正大学博物館所蔵）  
 応永二八（一四二一）年  
 大きさ（高六八・五cm・幅一〇・四cm・厚二・二cm）

南無妙法蓮華經 妙海禪尼  
 三月廿二日  
 応永廿八年



10、主題両尊式（立正大学博物館所蔵）  
 永正九（一五一一）年  
 大きさ（高二二・六cm・幅一五・〇cm・厚一・七cm）

□正九□  
 經 妙伍 申  
 四月五日



11、主題両尊式（立正大学博物館所蔵）  
 永禄四（一五六一）年  
 大きさ（高七七・五cm・幅一九・五cm・厚三・一cm）

唯佛  
 南無妙法蓮華經 先師日祝尊位  
 五月廿七日  
 永禄四年 辛

#### 4. 妙昌寺の題目板碑

日蓮宗青鳥山妙昌寺は、埼玉県東松山市神戸 1121 に所在し、北側 300m のところに都幾川が東流しています。妙昌寺の沿革は、旧家の川角岸久子家に伝わる古文書、あるいは『新編武蔵国風土記稿』に記述が認められます。

「當時建立 弘安四（1281）年十月也  
開山日仙聖人 本山頂師御弟子也  
一間四面辻堂有之一七日御說法此處之城主  
斧澤入道修理太夫  
与申四町余寺代被下妙昌寺  
建立

弘安四年中此地ニ一寺ヲ建立シ山号ヲ青鳥山寺号ハ妙昌寺ト称シ、年月ヲ経テ天文年間（1532～1554）ニ至同郡神戸村写永伝ニ該寺ヲ移轉其後元和四（1618）年本村字山ニ移轉シ今ニ存置ス

祖師堂一寛文六年創立 中老日法聖人ノ作ニシテ元祖日蓮大士自御開眼ノ尊像ナリ」

と記述されており、弘安 4（1281）年に青鳥の地に寺地を寄付され創建、天文年間に現在の地に移転してきたことが分かります。

妙昌寺には、計 16 基の題目板碑が所蔵されており、今回立正大学博物館周辺の題目板碑として取り上げました。

一番古い板碑は、貞和 2（1346）年銘の主題兩尊式のもので、宗祖 65 回忌に日願上人と 26 人の信徒により造立されたものです。



妙昌寺所蔵の板碑



1、主題兩尊式（妙昌寺所蔵）  
貞和二（一三四六）年  
大きさ（高）一五九・〇cm・幅四〇〇cm・厚六・〇cm

南無多寶如來  
南無妙法蓮華經  
南無釈迦牟尼佛  
十方佛土中 右為最日蓮大  
唯一乘法 聖人六十五年忌  
貞和二年十月十三日  
元二亦無三 辰野尚信日願  
除佛方便説 一結衆廿六人  
（蓮座）



3、主題兩尊式（妙昌寺所藏）

寬正四（一四六三）年

大小さ（高二三・〇 cm・幅二五・五 cm・厚一・〇 cm）

〔寶如來妙弥比丘尼〕

〔華經〕

寬正二年二月十日



2、一遍主題式（妙昌寺所藏）

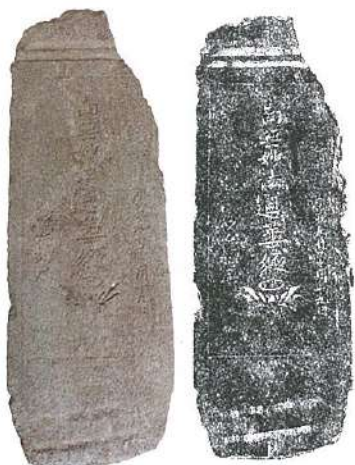
応永九（一四〇二）年

大小さ（高五九・〇 cm・幅二二・〇 cm・厚一・九 cm）

応永九年十月十九日

南無妙法蓮華經

妙心祥尼



4、主題兩尊式（妙昌寺所藏）

寬正四（一四六三）年

大小さ（高四九・〇 cm・幅三七・五 cm・厚二・五 cm）

得入無上道速

妙本聖

南無日蓮大聖人

長享二年六月八日

是人於佛道決定無有疑



5、曼荼羅式（妙昌寺所藏）

文明十三（一四八二）年

大小さ（高三九・〇 cm・幅四四・〇 cm・厚三・八 cm）

（不動種子）

大仏目天皇

存生時

日頂上人

日權

大聖人

日仙上人

文明十三年卯月日

大増長天皇

大持国天王

南無多寶如來

大日天王

南無妙法蓮華經

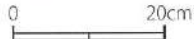
南無觀世音菩薩

大月天王

十羅刹女

大明十三年卯月日

大増長天皇





南無多寶如來（通） 於我滅後應受持斷經妙法比丘尼位  
 南無妙法蓮華經（通） 南無日蓮大聖人（通）  
 南無觀世音尼佛（通） 是人於佛道決定無有疑 永正十四年丁二月  
 正月

6、主題兩尊式（妙昌寺所藏）

永正十四（一五一七）年  
 大尺寸（高一五〇cm・幅四〇cm・厚三・五cm）



南無多寶如來（通） 尊自許是念以何今來生妙法聖靈位  
 南無妙法蓮華經（通） 南無日蓮大聖人（通）  
 南無觀世音尼佛（通） 得入無上道速成就佛身 永正十四年丁二月  
 正月

7、主題兩尊式（妙昌寺所藏）

永正十四（一五一七）年  
 大尺寸（高一五〇cm・幅二九〇cm・厚三〇cm）



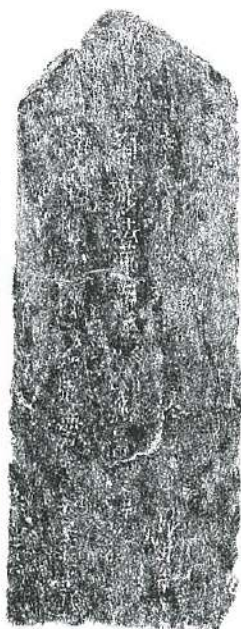




大持國天王 大日天子  
南無多寶如來 鬼子母神  
南無妙法蓮華經 南無日蓮大聖人  
南無觀世音菩薩 南無地藏菩薩  
南無彌勒菩薩 南無阿彌陀佛  
南無迦葉菩薩 南無釋迦牟尼佛  
南無沙門天王 大月天子 大竜王等 大増長天王  
(愛染種子) 大永五年乙酉十月一日

8、曼荼羅式(妙昌寺所藏)

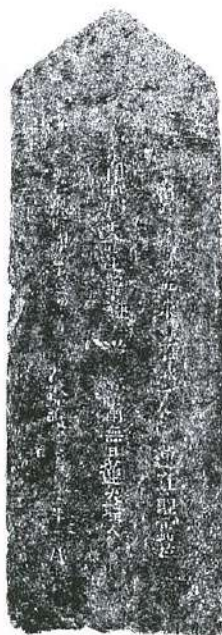
大永五(一五二五)年  
大尺寸(高(三〇〇)cm・幅四四〇cm・厚三五cm)



南無多寶如來 是人於佛道  
南無妙法蓮華經  
南無觀世音菩薩 決定無有疑天文□□□十一月日

10、主題兩尊式(妙昌寺所藏)

天文年間(一五三二~一五四年)  
大尺寸(高一〇八〇cm・幅三七〇cm・厚三〇cm)



南無妙法蓮華經 南無日蓮大聖人  
南無觀世音菩薩 能為救護 享祿二年正月五日

9、主題兩尊式(妙昌寺所藏)

文明十三(一四八二)年  
大尺寸(高二三九〇cm・幅四四〇cm・厚二八cm)



二聖 (不動種子) 逆修妙蓮位  
南無多寶如來 鬼子母神  
南無妙法蓮華經 南無日蓮大聖人  
南無觀世音菩薩 十羅刹女  
二天 (愛染種子) 天文廿四年乙卯正月

11、曼荼羅式(妙昌寺所藏)

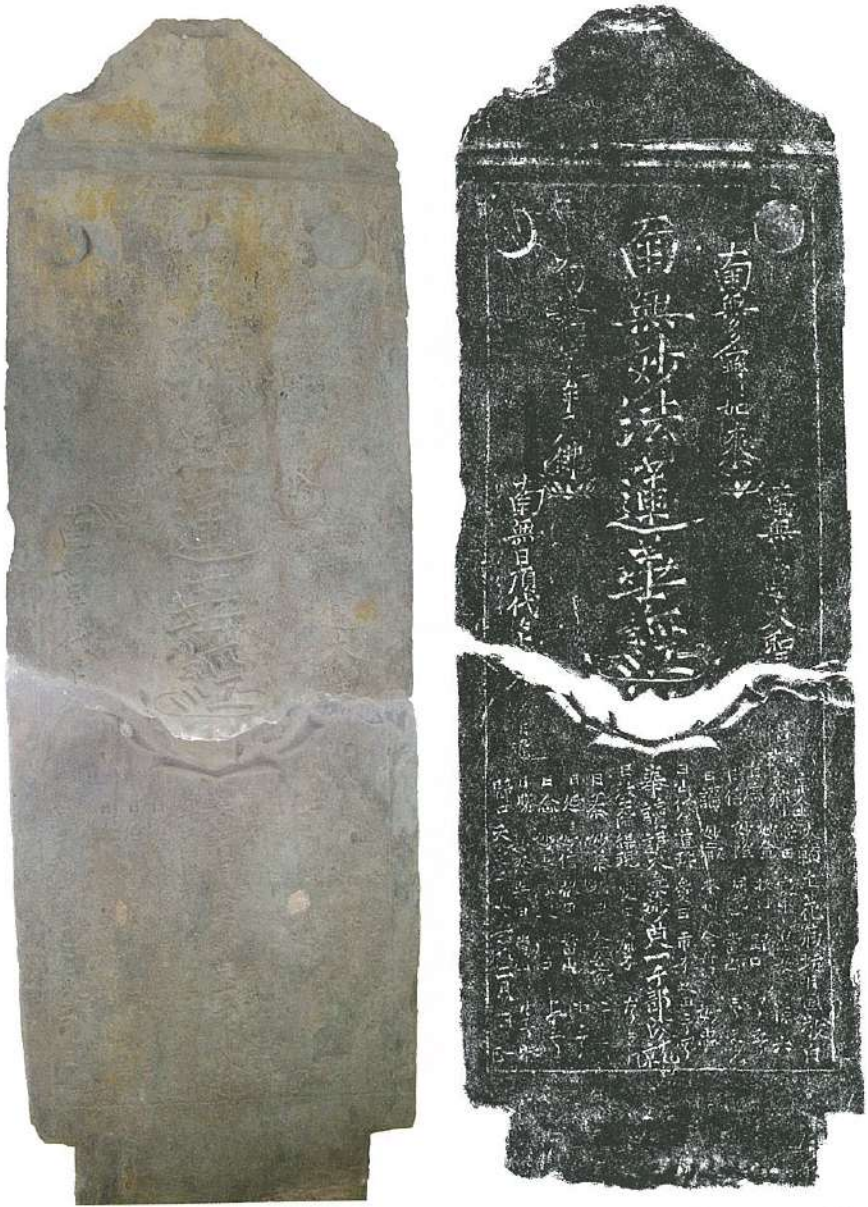
天文二四(一五五五)年  
大尺寸(高九一〇cm・幅四〇〇cm・厚三〇cm)

0 20cm

12、主題兩尊式（妙昌寺所蔵）

天文二十四（一五五五）年

大きさ（高）一五七・〇（巾）幅五三・〇cm・厚五・〇（厚）



④

南無日蓮大聖入日蓮

南無多寶如来(經)

南無妙法蓮華經(經)

南無日蓮大聖入日蓮

①

南無日蓮代之上日蓮

宗金	大願庄化藏坊日蓮歌白
本師	愛田家中息女源六
日慶	妙隆 杉田 野口 四郎五郎
日信	妙隆 同慶 富山 三郎五郎
日護	妙成 愛日 市子 杉田 三郎一郎
日仙代々	源原 愛日 市子 杉田 三郎一郎
奉統	源大 泉妙 典一 十郎 成流
日教先師	降理 愛田 子 太郎 衛門
日奉	妙隆 杉田 金 三郎
日延	妙隆 杉田 富山 三郎
日念	妙善 四 野口 三郎
日勝	妙秀 吉田 富山 三郎
野口	天文二十六年二月日正





13、曼荼羅式(妙昌寺所藏)

永祿十二(一五六九)年  
 大きさ(高)二〇〇cm・幅四三〇cm・厚三〇cm

二聖 聖觀一人 大日天王 善哉善哉  
 南無多寶如來 鬼子母神  
 南無妙法蓮華經 南無日蓮大聖人  
 南無觀世音菩薩 十羅刹女  
 二天能為救護 大月天王 永祿十二年己六月敬告

0 20cm



14、主題兩尊式(妙昌寺所藏)・年不明

大きさ(高)四〇〇cm・幅一八〇cm・厚二〇cm

南無多寶  
 南無妙法  
 南無



15、主題兩尊式(妙昌寺所藏)・年不明

大きさ(高)四八〇cm・幅二六〇cm・厚二〇cm

南無多寶如來  
 南無妙法蓮華  
 南無觀世音菩薩



16、主題兩尊式(妙昌寺所藏)・年不明

大きさ(高)四五〇cm・幅四四〇cm・厚三五cm

大持國天王  
 南無多寶如來  
 南無妙法蓮華  
 南無觀世音菩薩  
 大毘沙門天王

0 20cm



曼荼羅式題目板碑【文明13(1481)年】  
(埼玉県東松山市妙昌寺所蔵)



第6回特別展  
題目板碑の世界

編集・発行 立正大学博物館  
発行日 平成21年11月1日  
〒360-0194 埼玉県熊谷市万吉1700  
TEL 048-536-6150 / FAX 048-536-6170  
E-mail ; museum@ris.ac.jp  
URL ; <http://www.ris.ac.jp/museum/>

(印刷：アサヒ印刷株式会社)